

郷土先哲を学ぶ

地域福祉の情報交換の場として毎月第4月曜日に開催されている、みふね福祉絆塾(馬場洋一郎会長)。10月26日、御船町の先人について学ぶため、郷土先哲の一人「宮部鼎蔵」の生家跡碑、碑の後方にある鼎蔵の出生時に産湯として使われたと言いつた井戸、一族の墓所や鼎蔵園を訪れました。その後、同じく先哲の一人である林田能寛が私財を投じて架橋させた八勢目鑑橋を訪れ、先人の偉業を学びました。



町文化財専門員から説明を受ける参加者

福祉協力員・介護予防サポーター合同研修会

10月14日と16日、介護予防サポーターと福祉協力員の合同研修会がカルチャーセンターで開催され、2日間で202人が参加しました。本研修会は今後の生活支援サービスについて住民と一緒に考える場を設けるために社協と町が企画。10月から開始した介護保険の新総合事業の説明後、生活支援コーディネーターから先進地の生活支援の取り組みを紹介。後半はワークショップを行い、今後の生活支援サービスに対する意見を発表しました。



ワークショップで「近所の助け合い」について話し合う参加者



鏡開きで祝樽を割ってトンネル貫通を喜ぶ関係者

九州中央自動車道高木トンネルが貫通

10月27日、九州中央自動車道高木トンネル(478.9m)の貫通式が開催され、工事関係者や地元住民など約200人が参加して貫通を祝いました。終点側の岩盤が重機により掘削され、貫通した穴から光が差し込むと、参加者から大きな拍手が沸きおこりました。藤木町長は「地域住民の期待を形に変える大きな一歩。一日も早い全線開通を心待ちにしています」とあいさつしました。小池高山IC～北中島IC(仮称)区間(10.8km)は、平成30年度供用開始予定です。



真剣な表情で缶バッジのイラストを描く子どもたち

子育て遊園地とやなせたかしシアター

10月18日、カルチャーセンターで、町子育て連絡協議会(柴田恒美会長)が主催する、子育て遊園地とやなせたかしシアターが同時開催されました。子育て遊園地では、缶バッジ作りやお面作りなどの親子で楽しめるコーナーが設けられたほか、子育てサークルによるフリーマーケットなどが行われました。やなせたかしシアターではタヌキのハルと人間のパルのあたたかい親子愛を描いた「ハルのふえ」を上映。同時に「アンパンマンが生まれた日」も上映されました。

麗しき宝塚の世界へ

10月27日、町カルチャーセンターで、宝くじ文化公演「さくら 美しき日本」と題した宝塚OGによる宝塚歌劇が公演され、会場は町内外から集まった多くの宝塚ファンで賑わいました。鮮やかな光が舞台を彩るなか、ベルサイユのバラなどの有名なものから東日本大震災を表現したものなど、和洋が混在した歌劇の数々が披露されました。観客は光と音楽に包まれた会場に響き渡る、表現力豊かな踊りや力強く美しい歌声に酔いしれていました。



宝塚OGによる華やかな舞台

第6回美術・工芸協会展覧会

10月20日から25日にかけて、カルチャーセンターアートホールで町美術・工芸協会主催の第6回展覧会が開催されました。展覧会には町内30人の作家から出展された油絵・陶芸・能面・浮き彫り彫刻などの幅広い、個性ある約80作品が並びました。展覧会終了後は、各作家の小品が抽選でプレゼントされました。代表世話人の竹田津純さんは「参加が増加傾向にあるのはうれしい限り。今後も町民の皆様に親しまれ、楽しい展覧会になるように努力していきたいです」と話しました。



来場者に作品を解説する竹田津さん



お芋いっぱいおとれたよ！みんなで「イエイ！！」

上野保育園 園児が芋掘り

10月30日、川口勝行さん(上野)の畑で、上野保育園(宗心みどり園長・56人)の園児37人が芋掘りを行い、地元住民や町民生委員・児童委員など13人と楽しく交流しました。農業体験や思い出づくりを目的に今年で13回目。芋掘り終了後、採れたさつまいも「紅はるか」は園児たちにプレゼントされ、芋の天ぷらがおやつに振舞われました。園児たちは「芋掘りできて楽しかった！」と口をそろえて笑顔で話しました。



城山公園の宗運追善碑を見つめる参加者

名将・甲斐宗運の足跡を訪ねて

10月25日、戦国時代の名将・甲斐親直(宗運)の生誕500年を記念した、山都町郷土史伝承会主催の「秋の野外研修」が開催されました。当日は13人が参加し、東禅寺・若宮神社・永寿寺・乙護王神社・城山公園など町内の甲斐宗運にゆかりのある場所や史跡を巡りました。伝承会会長の田上彰さんは「宗運の足跡を巡ってよかった。まだまだ御船町には史跡が残っていると思うので、また来たいと思います」と笑顔で話しました。